

# 見失う重要課題

予想通りと言っていないだろう。冒頭からいきなりだった。

「本年のオリンピック・パラリンピックもまた、日本全体が力を合わせて、世界中に感動を与える最高の大会とする。そしてそこから、国民一丸となって、新しい時代へと、皆さん、共に踏み出していきましょうではありませんか」

1月20日に開会した通常国会。安倍晋三首相の所信表明演説は、やはり今年の1大イベントの東京オリンピック・パラリンピックを強くアピールしたものだ。

「感動」や「最高」というような謳いあげ文句に加え、「国民一丸」などに至っては国民総動員のような印象をどうしても抱えてしまうのは私だけだろうか。

もちろんオリンピックの成功を否定する国民はいないだろう。しかし、権力はどうも逆にそれを利用して失点やまずい部分を覆い隠そうとするのだ。



東京オリンピック・パラリンピックを強くアピールした安倍首相

今国会は、安倍首相にとつて、桜を見る会問題やIIR（カジノを含む統合型リゾート）汚職、自衛隊の中

東派遣問題など引き続き厳しい政権運営が迫られる。代表質問に始まり衆参予算委員会でも野党の追及は続いた。

これらに対して、オリンピック

ムードで覆い隠す、忘れさせるという戦略を安倍政権は描いているようである。

ある安倍首相側近の自民党幹部ベテラン議員自身でさえこう認めた。

「権力維持のためにはどんどん上書きして行くことは政権の当たり前の手法だ」

そう言えば好例がある。

去年は「令和」がスタートした。春の元号発表に始まり、秋までずっと「令和」一色。

新しい時代とそれに関する数々の行事などで逆風が吹いてもそれを消し去り政権は安定した。勤労統計不正など政府の大罪も、老後2000万円必要という年金制度破たん問題も素通りしてしまった。

「今年、その令和がオリンピックになる」

前出ベテランはそう話す。安倍政権が必要以上に煽るオリンピック熱に騙されては



# オリンピックムードで

いけない。

まず国会でやるべきは

「説明責任」と「社会保障」

今国会でやるべきこと。安倍政権は真摯に応え、野党は徹底して対案を出して議論を挑んで行くべきまさにそのテーマは「説明責任」と「社

会保障」ではないだろうか。

まず「説明責任」。

桜問題やIR汚職、公選法違反の疑いの2閣僚辞任などについて、安倍首相は依然としてまともな説明をしていない。特に名簿の破棄は公文書の扱いをその時々々の政権の勝手な事情で好き勝手に処分してしまうといったあり得ない行為だ。

安倍首相は今国会

## 東京一極集中はさらに進む

直前に記者団に向かって「政策論争をしたい」と語ったが、その大前提は説明責任を果たすことだ。世論調査で国民の7割が不十分としている説明責任を果たさずして、政策論争などに入って行けないのは明白だ。そして、「社会保障」さらに詳しく言えば「少子高齢化に伴う新たな社会保障制度のあり方」だ。少子高齢化が猛スピードで進んでいて

止められない。じつはそんなことはとうの昔に分かっていた。

1990年代からすでに自民党の政策通議員らは「大変なことになる」と口にしてきていた。当時厚労族で社会保障のエキスパートでもあった橋本龍太郎氏が私に「今後最大の政治課題」と言い切っていた。

しかし、その後も政府は有効な少子化対策も打てず、全体の人口減は進んでいる。

今後、これによって日本の社会そのものは大きく変わる。少ない人口の中で東京一極集中はさらに進む、地方自治体は消滅する。中央と地方といういまの統治の仕組みも変わらざるを得ない。税収も激減して行く。高齢化で労働市場は怖いぐらいに変化する。

そうした厳しい時代のトータルな国家像を議論し、社会保障の在り方に取り組まなければならないのにやって来なかった。安倍政権は長く政権をやってきたからこそ腰を据えて取り組めたはずなのに、安倍首相



の口からは多くが語られてこなかった。

今回、所信で安倍首相はようやく社会保障に取り組みと表明し「全世代型社会保障」というキャッチフレーズを語ったが、それに騙されてはいけない。

響きはいいが何のことはない、高齢者からまずむしりとるのである。

人生100年時代などといって高齢者の定年を延ばそうとしているが、これによって高齢者はこれまで以上に長く年金を納めなければならなくなるし、受給時期はさらに先延ばしになりそうだ。高齢者の医療費負担も進めようとしている。そうやって、高齢者に偏っているとされる社会保障費を削り、それらを高齢者優遇だと不満を持つ現役世代に回して不満に応える形にはなっている。

一見若い世代は満足するかもしれないが、じつはその現役世代だって同じように高齢者になったら75歳まで働かされ、年金もまともにもらえなくなるのだ。

国民を社会保障分野で高齢者と若者に分断し、お互いにいがみ合う状



安倍政権が考えている改革は、結局年金医療など社会保障制度の維持と財源確保

一つになって、政府・与党と対峙して考えて行かなければならない。

「安倍政権が考えている改革は、結局年金医療など社会保障制度の維持と財源確保」(野党政調幹部)

こんな問題もある。

昨年、令和ムードに国民が誤魔化されて見過してしまっただ中に、「財政検証」

がある。今後、自分の年金はいくらもらえるのかという別名「年金の健康診断」とも呼ばれている。

それによると、約30年後には、現役世代の収入の50%以上(所得代替率)は確保できるとしているが、じつはこの計算が意図的であつたく信用できないのだ。

経産省出身野党議員は数字の前提になる経済成長予測があり得ない高い設定になっていると次のように話す。



「今後の低成長時代、さらに少子高齢化で働き手もいなくなり成長なにかあり得ません。もらえる年金額を高く出すためわざと成長率を高くして都合よく計算されています。自公政権はこれまで『年金制度は100年安心』と言い続けてきたがこれがウソだったことになる」と世論は許さないから数字をとにかく合わせているだけ」

さらに、検証の中に2つの爆弾がある。明らかに悟られないようにするためにさらりと触れている。

それは今後の年金制度維持のための課題として、『年金財源確保のためにパート労働者などにも厚生年金を納めさせ加入範囲を広げて行く』ことと、『保険料拠出期間の延長と受給開始時期の選択』だ。

前者の『パートにも広げる』というの、一見パートの人たちも年金がもらえる仕組みだといかにも前向きな政策に見えるが、厚生年金というのは本人だけでなく同時に会社が半分を払う仕組みになっていること



## 安倍首相の4選はあるのか

から、パートを雇っている中小企業などへの負担は莫大に増える。企業の死活問題になってしまうことがまったく説明されていない。

また、後者の《支給時期の先延ばし》も大問題だ。前述したように、高齢者の現在の定年を延ばし年金をもっと長く先まで納めしかも支給時期も70歳や75歳にまで先延ばしにしようということになって行く、まさにその布石なのである。

企業は、定年延長で社内が高齢者の職場を確保するという難しい問題を迫られ、年金の半分を払う負担期間も長くなる。

「経営側、特に中小企業にとって、さり気なく書き込まれた2つは見過ごせない。安倍政権は人生100年と働き方改革で定年延長しようとしています。延ばすということはその間もずっと厚生年金を払えということ。寿命が延びても健康なお年寄りだけではない。支給を待たずに死んでいく人もたくさん出てくる。要はパートへの拡大も支給時期の先延ばしにしても政府が考えている改革は表面的にやっていますよと見せかけながら、制度が維持でき

ればいいということ。このまま行くと国民の負担は大きくなり、一方で年金がもらえるかどうかも分からなくなってしまう。根本的な制度設計の改革が必要な場合に場当たりのこれでは安心できる社会保障制度など無理です」(野党幹部)

政府は社会保障改革の検討会議を発足させ民間メンバーに中西宏明経団連会長らを起用したが、高齢者貧困問題の有識者や労働者側の連合も入っていない。「このメンバーだと人間が生活して行くという視点にならない」(同政調幹部)

案の定、検討会議は財政検証で匂わせたパートなどの加入や、75歳以上の一部医療費の2割負担などに着手した。

今国会、国民もメディアもオンラインピクチャードに酔いしれることなく「説明責任」と「社会保障」をウォッチして行かなければならない。

### 安倍4選は消えていない

さらに今年、政局の年と言えそ







岸田文雄自民党政調会長

民党幹部」と言われている。私の取材でも、昨年10月の党役員人事で安倍首相は二階俊博幹事長を交代させ、岸田氏を総裁登竜門の幹事長に据えようとしたという経緯がある。収録や他のテレビで安倍首相は…。

「岸田氏は」外相として相当経験を積んだ。大変誠実で、相手を尊重される方で、岸田氏といると居心地がいいと感じる人が多い」

うだ。総任期最後の安倍首相だが、4選をめぐる駆け引きはこれからが本番である。

この年末年始、安倍晋三首相がテレビ番組などで次々に挙げたポスト安倍候補の面々。

12月27日のBSテレ東の番組収録では、候補として自民党の岸田文雄政調会長、茂木敏充外相、加藤勝信厚生労働相らを挙げた。中でも岸田氏は永田町で「意中の後継者」（自

「アメリカの）オバマ大統領の広島訪問に向け、広島出身の岸田さんが果たした役割は大変大きかったと評価している。これからさらに明確な発言をされていくことを期待している。もうバットをぶんぶん振っている。もうじきその音が聞こえてくる」

そして、安倍首相はポスト安倍について「自民党にはたくさん的人物がいると国民に思っていただけだ

ら」（BSテレ東）と語り、これらを聞くといかにも自分は最後の任期であり、次へバトンタッチするかのような印象だ。

しかし要注意。岸田氏以下これらのメンバーに共通するのは、あくまでも安倍首相が本当に退陣したあとの総裁選を狙っている「禪譲組」だということ。

閣僚経験のある自民党ベテラン議員が言う。



加藤勝信厚生労働相

これこそが安倍首相の後継者発言のポイントなのだ。

安倍首相は4選についてまだどうするかを決めていないのではないかと。それを決断するのは、世論や政局における自らの地位や憲法改正の進展を

「もし、安倍首相が4選を決定したとしたら彼らは安倍首相を倒す覚悟でその総裁選に出ると思うか？考えられない。岸田氏は最近盛んに『戦う』という言葉を使っているが、それはあくまでも安倍首相の出ない次の総裁選のことではないか。茂木氏だつて安倍4選に触れているし、加藤氏も政権を全力で支えるとしていて自分の政権構想をまだ固めているわけではない。つまり、安倍首相が挙げたこのメンバーは、4選になればそれを支持する面々だということだ」



見ながら、「まだ先」。するとそこま  
で4選も選出できる環境をキープし  
ておかなければならないのだ。  
「安倍首相が挙げているメンバー  
は4選ならその終わりをさらに待  
つ。もし首相が退陣してもコント  
ロールし易いメンバーを後継者にし  
てキングメーカーとして次期政権に  
影響力も残せる。要するに、首相に  
とっては4選を決めても退陣を決め  
ても都合な名前をつらつらとこの  
段階で挙げているだけのこと」(首  
相側近自民党幹部)



石破茂元幹事長

その証拠に、いまマスコミなどの  
世論調査でポスト安倍の1番手であ  
る石破茂元幹事長については後継者  
「石破さんの場合、このまま桜を  
見る会問題やIR汚職などで内閣支  
持率が下ってきた場合、石破さんへ  
の交代というのは極めて現実味があ  
る。だからこそ首相は名前を挙げな  
い」(同幹部)  
こうしたポスト安倍発言が確信犯  
だと裏付ける証拠もある。  
テレ東番組で4選への意欲を問わ  
れたのに対し、「本当に考えていな  
い」とした。これは「ない」ではな  
く「まだ考えていない」ということ  
だ。さらに1月7日の党仕事始めで  
は、「桃栗3年、柿8年」のことわ  
ざを引用し「柚子は9年の花盛り。  
柚子までは責任を持って大きな花を  
日本に咲かせたい」と述べ、総裁就  
任から9年となる2021年9月の



茂木敏充外相

として積極的に  
名前を挙げるこ  
ともなく、番組  
では司会者に聞  
かれてようやく  
触れたものの  
「大変勉強熱心  
で、チャレンジ  
精神にあふれて  
いる方だ」と突  
き放した言い方  
だった。

「秋」ということになる。  
一方で、もし退陣を決めて岸田氏  
などコントロールできる後継者を据  
えたとしても秋に動くだろう。翌  
2021年は総裁、衆議院ともに任  
期が来て自民党そのものにレーム  
ダック化が進むから新総裁であつて  
も選挙で勝つチャンスは年内の解散  
総選挙しかないということになる。  
いずれにしても、今年がオリンピック  
クというイベントの陰で、激動の政  
治が同時並行で繰り広げられる。

任期満了を指し、そこまで自民党総  
裁任期を全うする姿勢を示した。4  
選や退陣するかを決めるまでの時間  
を確保し求心力を維持する発言と見  
ている。  
では安倍首相はいつ決断するの  
か。私は前号でも書いたが、この秋  
と見ている。それも解散が絡む。も  
し首相が4選を決めた場合、必要な  
のは選挙で大勝することが大義にな  
る。オリンピックの高揚感が残つて  
いてさらに経済政策など打ち出した  
上で解散すれば大勝できる、だから  
「秋」ということになる。



(了)